



諸遊壊司議員

ごみ袋の有料化

他市町村と比べ高くない

問 ごみ袋有料化の目的はごみ減量化の一層の推進、ごみの排出量に応じた費用負担の公平性・平等性、ごみ処理費にかかる財源確保などの観点がある。

県内の市町村の状況を見ると、ほとんどの自治体のごみ袋の有料化を実施しており、本町でも可燃ごみが年間3600tから3800t、費用が

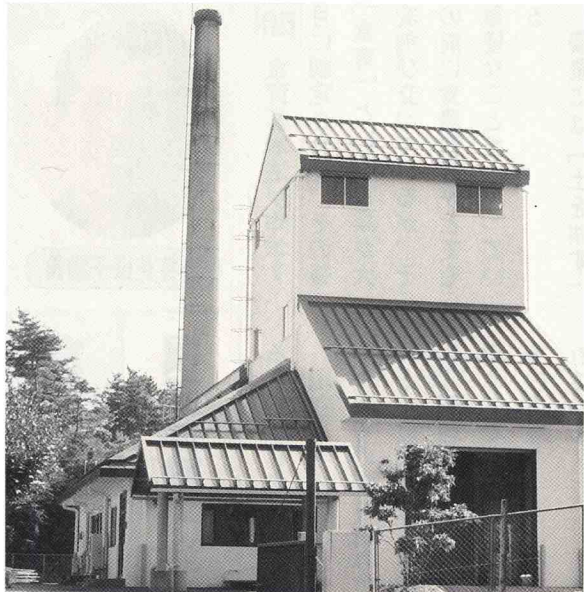
約4億円かかる現状では、有料化もやむを得ないと思う。

- (1) 大袋40円・小袋20円の予定だがその額は他の市町村と比べてどうなのか。
- (2) 有料化によりどの程度の収入になるのか。
- (3) 有料化により不法投棄が増える心配がある。その対策は。
- (4) 合併したからゴミ袋代が有料化になったと思う

町民がいるのではないかと。ごみ減量の啓発と有料化せざるを得ない説明責任はどうするのか。

答 (山口町長)

- (1) 他市町村と比較しても高い価格設定ではないと考える。
- (2) 約3600万円の収入となるが、ゴミ袋を作る経費もかかるので丸々収入という訳にはならない。
- (3) 現在のパトロール体制(監視員1各地区1名が月2回巡回)を維持しつつ、町職員によるパトロール回数を増やす。
- (4) これまでも区長会等で説明をしている。さらに広報だいで11月号、各家庭への広報チラシ配布により周知を図り、住民の皆さんに理解していただく努力をする。



1日7トンの処理ができる中山焼却場

天ぶら廃油の回収を

今後検討を進める

町でも巡回バス1台が、このバイオディーゼル燃料で運行している。

町内からも学校給食センター・老健施設・業者・旅館などから天ぶら廃油が提供されているが、まだまだ原料不足と聞く。

せめて月に1度の割で、各集落で家庭から出る天ぶら廃油を回収する制度をつくり、それを利用する事業所が集めて、環境にやさしい町づくりを全町民全域で取り組んではどうか。

問

コップ1杯のてんぶら廃油を浄化するには、風呂の水槽で5、6杯の水が必要と聞いている。この廃油を「高田の柿の木村」では、精製してバイオディーゼル燃料として再利用している。

答 (山口町長)

廃棄されるものを資源として再利用していく取り組みは必要である。現在、一部の町内公共施設において廃食用油の提供に協力しているが、まだ



天ぶら廃油精製の機械(柿の木村にあります)



天ぶら廃油で走る巡回バス

提出に協力していない公共施設について検討を進める。

「大山町地域新エネルギービジョン」の策定にむけ、その中で太陽光・水力・風力エネルギー等の利用を合わせて、家庭から排出される廃食用油などを利用した、BDF(※)燃料の活用やそれらの資源の収集形態等も含めて、検討を進めていく。

※BDF燃料 植物性の油を原料にしたディーゼルエンジン用燃料のこと。